

あいさい 通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

タコノアシ？の紅葉



春先から調べている木曽川ワンダーランド(湾処)の自然に関して、「タコノアシの紅葉」という気になる話題を見つけました。

タコノアシは高さ数10cmの植物で、放射状に数本に分かれた総状花序を茎の先につけ、その上側に9月頃小さい花が多数咲きます。これを上から見ると、吸盤が付いた蛸の足に似ているためこの名前があります(図①)。晩秋11月になると、さく果が熟し全草が紅葉します(ゆで蛸のようになります)。

元来は全国の河川下流域・河口域の湿地、水田周辺などに普遍的に生育しており、珍しい草ではありませんでしたが、環境の変化により減

少し、また、外来種のセイタカアワダチソウなどによって生育地を奪われ、現在は環境庁の準絶滅危惧種に指定されているそうです。

木曽川河川敷に群生しているというネット情報を元に、9月中旬に花を探して写真を撮影してきました。東海広場周辺などの満潮になると水に浸かるような場所に咲いています。

11月、読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋など「・・・の秋」という言葉もあり、愛西市でも「文化祭・図書館まつり」「体育祭」「リレーマラソン」「レンコン掘り体験」など“秋”の催事がたくさん予定(6頁参照)されていますが、この秋は、木曽川のタコノアシの花、ゆで蛸となったタコノアシの紅葉を探してみませんか？

木曽三川分流工事 着工から130年

今年(2017年)は、木曽三川分流工事着工(1887(明治20)年)から130年となります。木曽三川分流というと、現在の木曽・長良・揖斐川のみをイメージしてしまいがちですが、愛西市においては、佐屋川が廃川になった影響も重要です。幸い、工事直前の地形図(3頁の図)、デ・レーケの設計図などが残っており当時の地形を偲ぶことが出来ます。＜3頁に続く＞

写真コンテスト 入賞作品展

愛西市観光協会が主催した“第1回 出逢い・ふれ逢い・あいさい写真コンテスト”は、9月30日（土）に募集が締め切られ、228枚の応募作品があり、10月13日（金）には審査会が開催されて最優秀賞など各賞10作品が決まりました。優れた作品が多く、甲乙つけがたく、審査会では各賞を決めるのが大変だったそうです。そして、10月28日（土）に愛西市観光協会（愛西市商工会南支所内）で表彰式が開催されます。これら写真コンテストの入賞作品は、愛西市内の観光を紹介するイベントとして、下記日程により愛西市内の施設で巡回展示される予定です。これを機会に、展示会場で愛西市の魅力ある観光資源を再発見して下さい。

- ＜特別 展示＞ 展示日時：11月 1日（水） ～ 11月20日（月）
展示会場：愛西市情報コーナー（市役所南館1階 9:00～17:00 土・日・祝日閉館）
主催：愛西市産業振興課（0567-55-7128）
- ＜巡回展示①＞ 展示日時：12月 1日（金） ～ 12月20日（水） 主催：愛西市観光協会
展示会場：愛西市佐織公民館（0567-26-1123）（9:00～17:00 月曜休館）
- ＜巡回展示②＞ 展示日時：1月 5日（金） ～ 1月19日（金） 主催：愛西市観光協会
展示会場：道の駅・立田ふれあいの里（9:00～17:00 木曜定休）

以上の展示会に関する問合せ先：愛西市観光協会（0567-55-9993）

秋の歴史散策・勝幡と高須街道

11月19日（日）、愛西市中央図書館主催で秋の「歴史・文化講座 歴史散策」を開催し、愛西市の勝幡町～根高町に続く高須街道（津島上街道）を歩きます。文化の秋、郷土の歴史を一緒に学びましょう。事前申し込みは不要、参加無料です。

集合日時：11月19日（日）1時～
集合場所：佐織公民館（駐車場は佐織庁舎）
主催・問合せ先：愛西市中央図書館（0567-28-7760）

行程：（5.4 km）

- ①佐織公民館➡②津田正生宅跡・釜地藏寺➡③巡見橋➡④津島上街道➡⑤勝幡城跡➡
⑥勝幡神社➡⑦梶浦正之出生地➡⑧勝幡駅➡⑨小津橋➡⑩山田長政出生伝承地➡①公民館



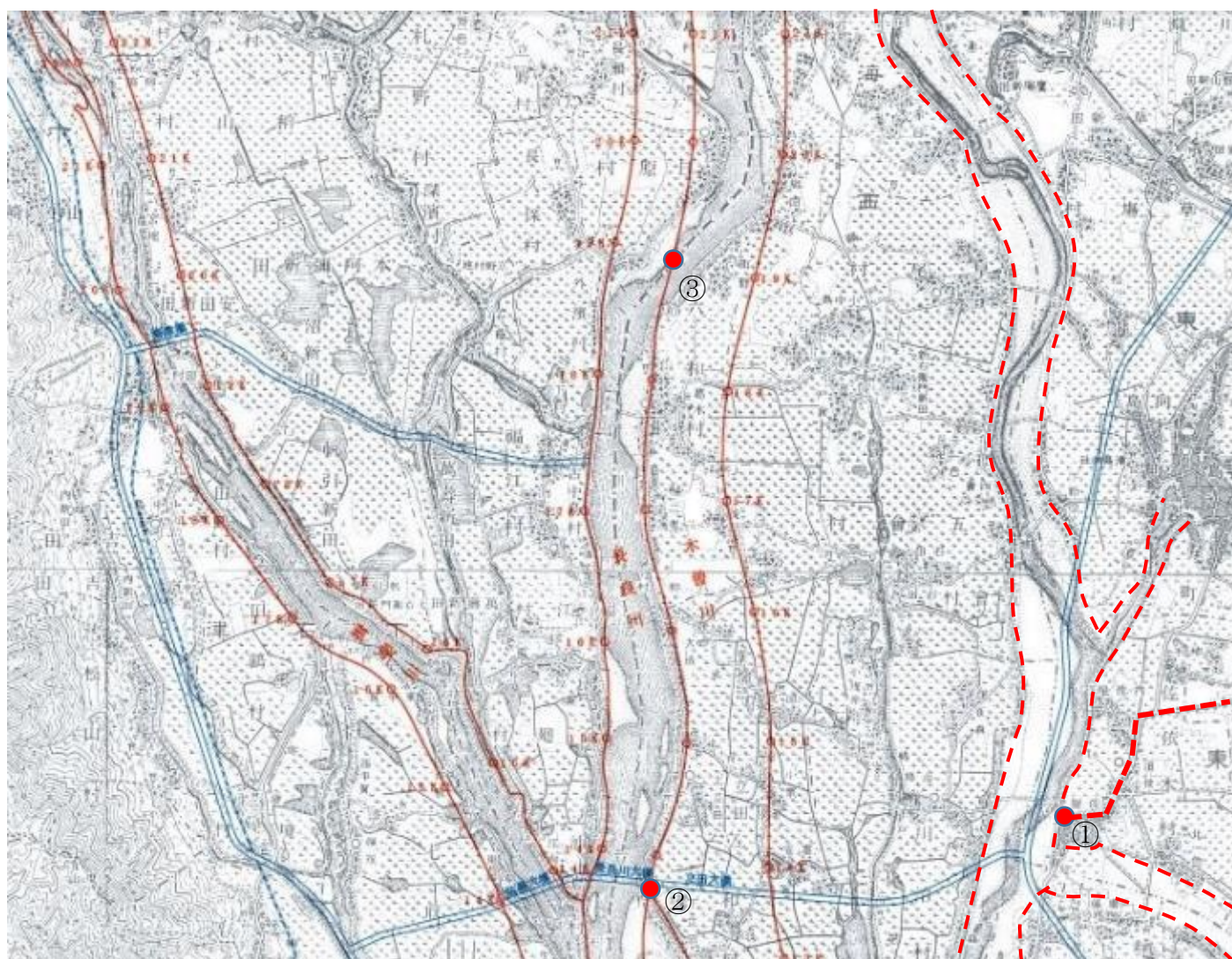
『あいさいレンコン街道』

愛西市の西端、木曽川左岸堤防沿いを南北に通る広域農道などを『あいさいレンコン街道』としました。案内チラシが愛西市観光協会などで配布されており、愛西市内で味わうことができるレンコンの特産品、蓮の花を見る名所などが紹介されています。『あいさいレンコン街道』は愛西市観光協会が愛知県の「食と花の街道 認定事業・いいともあいち食の街道」事業に申請するもので、認定されれば尾張地方で初となります。

木曽川 と 佐屋川

下図は、当時の地形図に、実線で現在の木曽・長良・揖斐川の流路（●印③）と国道 155 線など主要幹線道路を加筆し、破線で旧佐屋川・市江川の流路などを強調したものです。現在の愛西市八開地区と立田地区は、かつての佐屋川と長良川に囲まれていた立田輪中であり、旧佐屋川が木曽川本流だったことがわかります。さらに、現在の愛西市佐屋町（●印①）や津島市本町は、このように木曽川支流沿いの港町だったことも理解できます。そして、現在の愛西市を流れる木曽川は、その大半が掘削して作られた川であり、広大な土地（●印②）が川底になったことがわかります。また、このような古い地図から、佐屋町（●印①）南に東西に長い新田が広がっていたことがわかります。この新田は、江戸時代初期の 1658（万治元）年に市江（一ノ枝）川を開墾した善太新田ですが、その南側は尾張津島天王祭に関わる市江地区（市江島）に相当します。

さらに、このような古い地図には、江戸時代に使用されていた街道の名残が描かれています。すなわち、名古屋と佐屋とを結ぶ**佐屋街道**（下図の太い破線）、一宮・津島・佐屋・前ヶ須（弥富市）に続く巡見街道、名古屋から勝幡を経て高須（海津市）に続く高須街道などです。（注：下図の範囲には、これらの街道は一部しか描かれていません）これらの街道は、その後の区画整理などで、現在その道筋を探すのが困難になっていますが、それぞれの街の歴史を知る手がかりとなります。現在の地図と比較しながらこれらの歴史を探してみましょう。＜ 4 頁に続く ＞



佐屋川 と 佐屋宿



愛西市佐屋町は、江戸時代の佐屋街道（佐屋路）の宿場町でした。江戸時代末期に書かれた『尾張名所図会』に、当時の佐屋代官所前の風景が描かれています。現在も高台に家並みが続いており堤防跡であることが偲べれます（右図：●佐屋川左岸）。

佐屋路は、徳川家康や尾張藩祖義直が大坂夏の陣に出陣した時にも利用されました。そして、1623（元和9）年、船酔いを避けたい三代将軍家光が上洛した時に利用され、1634（寛永11）年に整備されました。佐屋路（右図点線）は、東海道の脇街道として、東海道と同様、江戸幕府道中奉行の管理に置けました。海路だった東海道の熱田（宮宿）と桑名宿をつなぐ七里ノ渡しと比較すると、距離も長く時間もかかりましたが、風雨が激しくて船が出せない場合もあり、危険な海上の旅を避けたい、船酔いを避けたいという旅人

が多く陸路を選んだため佐屋路は賑わいました。

佐屋路は、名古屋市の尾頭橋で美濃路と分岐し、万場・神守を経て、津島の埋田追分で津島神社参宮道と分岐して佐屋宿に至りました。佐屋（図③）からは、木曽（佐屋）川を下る三里ノ渡しで桑名に行きました。佐屋の宿場街には、本陣2軒（加藤、岩間）、脇本陣1軒、旅籠屋31軒があり、問屋場は加藤本陣が兼務していました。

佐屋には、江戸時代初頭、尾張藩祖義直が鷹狩りなどで使用していた佐屋御殿がありましたが、1695（元禄8）年に佐屋奉行所が設置されました。佐屋奉行所は、1726（享保11）年に一旦廃止されましたが、1781（天明元）年に佐屋代官所が設置され、海東・海西郡の大半を支配していました。佐屋代官所は1871（明治4）年に廃止されましたが、1985（昭和60）年に由緒を刻した碑（図②）が立てられました。

また、江戸時代初頭には、俳人・松尾芭蕉（1644～94年）が、1694（元禄7）年に江戸から伊勢への帰途、佐屋宿の山田庄左衛門宅で宿泊し、「水鶏鳴と人のいへはや佐屋泊 芭蕉」の句を詠みました。そして、芭蕉死後の1735（享保20）年に句碑が立てられました。「水鶏塚（図④）」は、芭蕉翁が詠んだ句を詠んだ場所に一緒に詠んだ人たちが石碑を立てたという、三拍子揃った貴重な句碑で、現在でも全国から芭蕉を偲ぶ俳人が来ています。＜5頁に続く＞



佐屋川 と 尾張津島天王祭の市江車

星大明社は愛西市西保町の氏神で、祭神は赤星明神とされます。この神社の鳥居は両部鳥居といって控柱がつけられています。10月第2日曜には、西保町の秋まつりで、石採車や神楽が星大明社境内に集まり、盛大に開催されています。

ところで、尾張津島天王祭（朝祭）には、先頭車として市江車が登場します。市江車には鉾持ち衆が乗船（図⑤）しており、津島神社の神様が神社へ還御（かんぎょ）する前に、天王川を泳いで神社に布鉾を奉納します。その内、三番鉾が津島神社の太鼓橋に張られた注連縄を切ります。

その市江車は、かつての市江（愛西市南部と弥富市の一部）に住む人々によって奉仕されており、祭の2週間前から東保町の東保公民館などで祭の準備をします。そして、祭前日（宵祭の日）午後には、この星大明社で市江車関係者が集まり試楽（最終リハーサル）、児行列（図⑥）などがあり、かつては佐屋川を船で、現在はバスで津島に向かいます。



佐屋川右岸堤防跡

立田大橋から東に向かって車を走らせると、森川の交差点が、かつての佐屋川右岸堤防跡（3 頁マップ参照）であり、周囲に比べて高台となっています。そして、国道 155 号線と交わり佐屋駅南に続きます。その間に渡る海部幹線水路（佐屋川用水）が佐屋川の名残です。佐屋川右岸堤防跡は、高台となった集落になっており、特に、森川町は、愛西市の市の木に指定されている榎の生垣で屋敷が囲まれた美しい風景（図⑦）となっています。



デ・レーケ が 残した風景

130年前に着工されたデ・レーケによる木曽三川分流工事によって変わったのは、木曽・長良・揖斐川の流路だけではありませんでした。人々の生活・物流にも大きな影響がありました。その一つが水上輸送手段を確保するために造られた船頭平閘門です。着工された頃は、桑名と佐屋などとを結ぶ物流路として利用されており、多くの船舶が船頭平閘門を通過していました。

また、東海大橋、立田・長良川大橋などが出来る前は、渡し船が各河川を往来していました。現在・愛西市観光協会が木曽川観光船として利用している船は、2011（平成23）年まで葛木の渡しに使用されていた船です。＜6 頁に続く＞



デ・レーケ が 残した風景

デ・レーケによる木曾三川分流工事で、愛西市付近の木曾川には船頭平閘門、背割堤、ケレップ水制、ワンド（湾処）といった地形が形成されました。



船頭平閘門（図⑧）は今も現役で機能しており、閘門の通過は、愛西市観光協会が運営する木曾川観光船の目玉ともなっています。木曾川と長良川との最大約2mの水位差を調整するため造られた重厚な扉の開閉を見ながら観光船で通ると、明治時代の近代化遺産の技術力に驚かされます。

一方、ケレップ水制とは、防災上、川の流れを中央に集めて制御し、堤防にかかる水圧を軽減するため、岸から川に対して



直角に築いた構造物（石垣や木杭など）です。愛西市周辺の木曾川には、新旧111基のケレップ水制が見られ、これほど多く見られるのは全国的に珍しいため、当地は2000（平成12）年に土木学会の選奨土木遺産に指定されました。なお、ケレップ（krib）とはオランダ語で水制や防波堤を意味し、言葉としては“水制水制”となりますが、日本古来の水制と区別するため、ケレップ水制

と呼んでいます。

また、湾処とは、ケレップ水制によって堰き止められた土砂が堆積し、湾の様な形状となった地形で、いろいろな植生が育ち、多様な生物の住处となっています。1頁で紹介したタコノアシも湾処内などに生育しています。



ケレップ水制も湾処も背割堤や木曾川観光船から見ることはできますが、木曾川は潮の干満の影響を受けるため、干潮時と満潮時とは違った風景となります。干潮時には、木曾川河川敷に干潟や葦原が広がり、長く突き出たケレップ水制が見えますが、満潮時にはケレップ水制などが水没して川幅一杯に水が流れ、湾処も水が満たされます。（図⑨は平均的な水位の時に見られる湾処風景です。）一方、木曾三川分流工事によって、現在の木曾・長良川と愛知・岐阜県境とにズレが生じました。130年前は、2頁に示した地図が示すように、かつての長良川の流路が愛知・岐阜県境でしたので、現在は、木曾・長良川の間に続く背割堤上に県境看板（図⑩）が立っています。さらに、4頁のマップのように、長良川には、愛知県の最西端、そして、愛知・岐阜・三重の三県県境があります。

さて、4頁のマップで示される場所は、江戸時代には福原輪中でした。その輪中堤防跡（図の太い破線）が今でも残っています。この堤防は輪中の最上流に位置し、その上には神社（図⑪）が置かれています。洪水時に、村人が集まった避難場所「助命壇」と考えられます。言い伝えとして、この神社に逃げれば大水でも流されることはなく、命が助かったとされます。また、マップには学校記号（文）が描かれていますが、愛西市立立田南部小学校の福原分校であり、2017年開校している愛知県唯一の分校です。＜7頁に続く＞



その他 愛西市 にある 観光資源

本紙では、佐屋川を中心に紹介しましたが、愛西市には、他にも織田信長が生まれた勝幡城（現・勝幡町・稲沢市平和町）、長島一向一揆など戦国時代の古戦場（森川町、大野町）、江戸時代の尾張藩家老・横井也有の菩提寺（西音寺・藤ヶ瀬町）、立田蓮根発祥の地（陽南寺・戸倉町）など、観光資源となる旧跡・名所がたくさんあります。いずれも、歴史をたどれば、日本最大の0m地帯にある木曽三川河口部デルタ地帯（河内：かわうち）に由来する旧跡です。

そして、愛西市の蓮根生産量は、茨城県土浦市、徳島県鳴門市に次いで、市別で全国3位。木曽川沿いの立田・八開地区に広がる広大な蓮田がその生産地であり、盛夏には大輪の蓮の花がたくさん咲いています。その内、地元固有種の立田赤蓮（図⑫）は、花が華麗で味も美味しいとされ、愛西市の天然記念物、市の花として守られています。



ハス と 蓮根

9月のある日、愛西市のある職員から夏に愛西市へ来られた欧米系旅行者からの礼状を見せてもらいました。その手紙の一節には「愛西市にハスの花がなぜたくさん咲いているのか不思議に思っていました。日本人はハスの根を食べるのですね」と書かれていました。

愛西市の見渡す限り広がるハス田、日頃見慣れている地元の私たちには、ハスの花 (lotus flower) と蓮根 (lotus roots) とが同じ植物で、ごく普通の農村景観と思っています。しかし、全国的に見れば珍しい景色かもしれません。そして、食文化の違う人には不思議な風景かもしれない、とあらためて思いました。

ハスとレンコン、蓮と蓮根、カタカナ表記と漢字表記でも文字としてのイメージが変わります。さらに、英語のロータス (lotus : ハス)、ロータスは、エジプト・ギリシャ文明に語源があり、仏教思想などに基づく東洋とは見方も変わるようです。夏には大輪の美しい花が咲き、大きな丸い葉が並んでいた蓮田も、晩秋は少し寂しいレンコン田になっていますが、いよいよ本格的な蓮根収穫期を迎えます。

愛西市 の 秋まつり

10月は全国的に秋祭の季節であり、愛西市でも第1・第2の土日に、各地で秋まつりが開催されていました。特に佐屋地区の西保町では、市文化財に指定された獅子頭も展示され、午後になると、氏神様の星大明社に、石取車や神楽が賑やかに集まりお囃子を披露していました。そして、神事後、上ノ切と下ノ切の獅子舞が奉納されました。これらの獅子舞（写真は鈴の舞）は、伊勢大神楽の流れを組む海部地区では珍しい舞です。



～ 愛西市周辺の観光 今後の予定 ～

- 10月29日（日） カラフルかめちゃんを作ろう 手芸教室（愛西市中央図書館主催）
 11月 1日（水） “出逢い・ふれ逢い・あいさい写真コンテスト” 作品展示（2頁参照）
 4日（土）・5日（日） 愛西市文化祭（佐屋会場、佐織会場）
 5日（日） 愛西市商工まつり（佐屋会場、佐織会場）
 7日（火） 木曾三川下流地区広域観光連携協議会（於：愛西市）
 10日（金） 木曾川下流域合同観光物産展（於：名古屋 金山総合駅）
 12日（日） レンコン掘り体験（＊観光協会主催、於：森川花はす田）
 18日（土）・19日（日） ゆるキャラグランプリ 2017inナガシマリゾート
 19日（日） 歴史・文化講座 歴史散策（愛西市中央図書館主催）
 19日（日） 木曾三川公園 リレーマラソン
 23日（木・祝） 津島法人会 ねんぐ村（於：甚目寺総合体育館）
 26日（日） レンコン掘り体験（＊観光協会主催、於：森川花はす田）
 12月 2日（土） 愛知駅伝「愛知ふるさと市」（於：愛・地球博記念公園）

V G 11月 定例会 の 予 定

集合時間：11月19日（日）9時～

集合場所：佐織公民館

内 容：2017年度の事業について

◇10月定例会（10月15日（日）9時～12時、於：愛西市文化会館、21人出席）議事録

1) 今後の催事について

- 木曾川下流事務所の職員に出席いただき、「木曾三川下流地区広域観光連携協議会」について、日程（11月7日）を確認し協力内容を調整しました。
- 愛西市商工まつり、レンコン掘り体験、ねんぐ村の日程を説明し参加者を調整しました。
- ご当地キャラ博・彦根、木曾川下流域合同観光物産展、愛西市中央図書館主催の歴史散策、ゆるキャラグランプリ・長島の日程を確認しました。

2) 9月・10月の催事報告

- 木曾三川ミズベリング協議会、鵜戸川釣り大会、秋まつり、鵜多須町の薬師堂御仏事、蓮台手芸教室などについて参加報告がありました。

3) その他

- 第2回研修旅行について、候補地と日程を検討しました。
- 写真コンテストの作品展示会日程を案内しました。
- 「あいさいレンコン街道」の案内チラシを配布しました。
- 佐屋地区に関する観光施策について意見交換しました。
- 愛西市中央図書館主催の歴史散策における案内内容を意見交換しました。

